



静岡県／平成22年度医療安全管理シンポジウム(中部地区)報告

「患者さんもチームの一員」～情報提供し、共に医療安全に取り組むことが大切～

平成22年11月8日(月)、静岡県病院協会医療事故防止部会が毎年主催している医療安全シンポジウム(中部開催)が静岡県男女共同参画センター「あざれあ」で開催された。県内31病院、3団体、一般から計187人の医師、看護師、助産師、薬剤師、放射線技師、臨床検査技師、事務、栄養士、理学療法士などの参加があった。

九州大学大学院医学研究院の鮎澤純子先生による「患者・市民の医療参加」と題した基調講演では、『患者、市民の医療参加』は平成17年厚生労働省が医療安全の確保を図る施策とした3本柱の1つであり、「患者もチームの一員である」ならば『ともに創る』という意識改革が求められ、目指すは『協働』であると述べられた。また「患者・市民の医療参加」は何も特別なことではないという意識を持つことが大切であり、そこから何ができるのか考えていくことを強調された。具体例を盛り込みながらの歯切れのよい講演に、「患者参加の医療安全」に力を抜き取り組めるとの思いを描いた参加者も多かったのではないだろうか。

続いて今回のテーマである『患者・市民の医療参加』への取り組みが3医療機関から報告された。

まず、焼津市立総合病院医療安全管理室の八木かおる先生による“「お名前をお願いしますキャンペーン」に取り組んで」は、患者誤認ゼロを目指すためには全職種が同じ意識を持つことが必要だとし、主旨を患者さんに伝えて名前を名乗ってもらうための取り組みや同時に実施した患者さんへのアンケート調査結果など興味深い報告だった。

市立島田市民病院診療放射線室の宿島久志先生による「診療放射線室における患者確認の現状と問題点」は患者誤認4事例を検証し、防止策として部署内での手順の見直しや医療従事者の意識改革および患者

さんに名乗ってもらうことで安全確保を図っていくとの報告があった。

JA静岡厚生連静岡厚生病院リハビリテーション科の杉山基先生からの「当院におけるリハビリテーション自主トレーニング指導の現状と課題」は、在宅生活において機能回復向上のために患者参加は不可欠であり、自主トレーニング指導は安全に運動や日常生活動作を行うためには重要であることを強調された。

講師を交えた全体討議では、同姓同名の現状やエラー事例の掲示により患者さんに注意



を喚起する、また転倒転落予防その他、病院で安全に過ごすための市民講座を開催するなどの活動は、医療者側の医療安全への取り組みに対し理解を得る機会になるなど意見が聞かれた。最後に座長が、「患者や市民の医療安全」の実践にあたり、医療者が患者さんに安全な医療を提供する目的で行っていることについての情報を発信することが、患者参加の医療安全を推進するうえで重要であるとまとめ、終了となった。

(文責 JA静岡厚生連静岡厚生病院 小幡久子)